

# 第 51 回国立大学法人動物実験施設協議会総会の参加報告

医学系部門生命科学実験班 畠山 照彦

## 1. はじめに（目的等）

国立大学法人動物実験施設協議会は、大学等における動物実験の精度と水準の向上を図るとともに、適正な動物実験の実施を推進し、医学・薬学・生物学等生命科学における教育及び研究の推進に寄与することを目的としている。本総会は、年に一度開催され、会員校関係者（施設長・専任教員・事務職員・技術職員）が集まり、サテライトミーティングや懇談会等を通じて情報収集・意見交換を行うとともに、総会において様々な審議を行う場である。

## 2. 期間・場所

期間：令和 7 年 5 月 29 日（木）～ 5 月 30 日（金）

場所：北海道大学医学部百年記念館（札幌市中央区）

## 3. 参加者等

国立大学法人動物実験施設協議会会員校の施設長・専任教員・事務職員・技術職員等

## 4. 研修内容

○5 月 29 日（木）18：00 - 19：30 サテライトミーティング

・動物実験が推進する医学・生物学研究

○5 月 30 日（金）9：00 - 12：00 技術職員懇談会

・動物実験/動物飼育に有用なツール

○5 月 30 日（金）13：00 - 17：00 総会。

## 5. まとめと感想

29 日に行われたサテライトミーティングでは、以下の 2 講演が行われた。

### 1. 北海道大学遺伝子病制御研究所 村上 正晃

「病態モデルを基盤に実施するムーンショット型研究開発、微小炎症制御プロジェクト」

### 2. 微生物科学研究会 微生物科学研究所・第 3 生物活性研究部 畠山 昌則

「細菌（ピロリ菌）感染がんとしての胃がん」

動物実験が推進する医学・生物学研究の研究成果について、マウスを用いた疾患モデル研究を含めて紹介されており、2 題とも大変興味深い内容であった。

30 日の技術職員懇談会では、『動物実験/動物飼育に有用なツール』をテーマに、2 つの企業から 2 題、3 つの大学や関連機関から 3 題の発表が行われた。

動物実験における 3Rs に配慮した最新の機器と飼育機材の紹介や、昨今注目されている DX 化に向けた取り組み、VR ゴーグルや AI 技術を用いた動物実験業界での活用法などが紹介されており、活発な議論が交わされた。どこの大学にとっても有意義な情報交換がされていたのではないかと考えている。

前年度まで技術職員委員会の委員として活動したが、そこでできた人脈がとても活きており、日常の業務で困っていることなどの情報交換や、気軽な雑談など、委員会活動でできた繋がり是非常に大きいものとなった。これからも他大学の技術職員等との交流を増やし、現場で困った際の相談等、今後の業務にも活かせるよう努めていきたいと考える。また、再び委員会活動の誘い等があった場合、積極的に手を挙げていきたい。

以上